



記事 1. 「地下鉄施設の保守、維持等に関する研究会 (第1回電力部会)」を開催

1. 「地下鉄施設の保守、維持等に関する研究会 (第1回電力部会)」を開催しました。

去る11月14日(金)の14時から、当協会5階会議室において、「地下鉄施設の保守、維持等に関する研究会 (第1回電力部会)」を開催しました。この電力部会には、9地下鉄事業者から変電所等の電力施設の保守管理及び設計に携わる実務責任者14名及び(公財)鉄道総合技術研究所き電研究室から1名が参加しました。



今般、研究会内の新たな部会として開催した電力部会では、今年3月に開催した「電力部会事前調整会議」において地下鉄事業者から関心の高かった「電力貯蔵装置 (大規模蓄電池)」を部会の研究テーマとして開催するものです。電力貯蔵装置は、鉄道設備の省エネルギー等に貢献するとともに、災害等による停電発生時には、トンネル内に停車した列車を

次駅まで走行させるための非常電源とし活用することが可能な設備であり、多くの地下鉄事業者で電力貯蔵装置の設置計画を進めています。

電力貯蔵装置には、変電所等に設置する地上側の設備と車両に搭載する車上側の設備がありますが、本電力部会では、地上側の電力貯蔵装置の仕様選定や効果的な運用等について、鉄道総合技術研究所のアドバイスも得ながら地下鉄事業者が一体となって研究を進めるものです。

第1回の電力部会では、「電力供給設備の省エネルギーに向けた取り組み」と題して、鉄道総合技術研究所き電研究室長の重枝秀紀氏から、電力設備の省エネルギー及び電力貯蔵装置の課題等について幅広く講義して頂きました。次に、地下鉄事業者が実施中の省エネルギーの取り組み内容について報告があり、その後、電力貯蔵装置を既に設置済み及び計画・設計中の事業者から、導入目的、蓄電池仕様、蓄電池選定理由、機器構成、運用方法、節電効果、非常走行等について、資料により詳しい説明があり、質疑応答に移りました。



質疑応答では、蓄電池に関してはニッケルリチウム電池又はニッケル水素電池の選定理由、蓄電池の容量及び充放電電圧の設定について、また、節電効果では、実測値とシミュレーションの数値との相違、その他では列車の非常走行における電力貯蔵装置の運用、障害の発生事例等について、多くの質問があり活発な意見交換がなされた。



次回以降の電力部会では、今回の質疑項目について深掘りし、電力貯蔵装置の効果的な設計、運用につながる研究を進め、地下鉄事業の省エネルギー化等に貢献して参ります。

✦ お知らせ ✦

日本地下鉄協会ホームページに新しい資料を追加しました!!

【リーフレット】に「マナーを守ってみんな笑顔♪」を新しく追加しました。

ぜひ、ご覧下さい。

(注) 必要に応じ、社内へ転送、回覧などをお願いします。

配信先を変更又は追加した方がよい場合は、新しい配信先の職名、氏名及びメールアドレスをお知らせ下さい。

本短信について、ご意見をお寄せ下さい。

連絡先: mukaida@jmetro.or.jp